

平成30年5月9日

各位

会社名 株式会社マネーパートナーズグループ
 代表者名 代表取締役社長 奥山 泰全
 (コード番号: 8732 東証第一部)
 問合せ先 取締役 C F O 中西 典彦
 (TEL. 03-4540-3804)

平成30年4月次 月次概況（速報）のお知らせ

平成30年4月次の当社グループの月次概況（連結ベース）を下記のとおりお知らせいたします。なお、営業収益及び外国為替取引預り証拠金は速報値であるため、決算発表時の数値と異なる場合があります。

記

年 月	平成30年3月期											
	平成29年									平成30年		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
営業収益 (単位:百万円)	469	488	449	404	489	539	483	482	607	552	499	562
外国為替取引高 (単位:百万通貨単位)	63,192	72,786	82,184	88,166	117,248	143,437	115,410	122,896	81,853	142,982	164,784	129,679
外国為替取引口座数 (単位:口座)	298,467	300,139	301,557	303,106	304,509	306,001	307,465	308,647	309,873	311,645	313,167	314,547
外国為替取引預り証拠金 (単位:百万円)	59,995	61,529	62,091	62,774	63,253	64,734	63,512	61,675	61,378	62,789	62,309	61,758
一般顧客	50,108	50,819	51,353	52,431	53,410	54,057	55,014	55,820	55,367	57,073	57,628	56,966
金融法人 (B to B)	9,886	10,709	10,737	10,342	9,843	10,676	8,498	5,854	6,010	5,716	4,680	4,792
マネパカード口座数 (単位:口座)	77,503	81,189	85,019	90,702	97,327	101,409	104,187	107,082	110,964	116,830	119,853	122,719

年 月	平成31年3月期											
	平成30年									平成31年		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
営業収益 (単位:百万円)	536											
外国為替取引高 (単位:百万通貨単位)	91,552											
外国為替取引口座数 (単位:口座)	315,872											
外国為替取引預り証拠金 (単位:百万円)	62,379											
一般顧客	57,653											
金融法人 (B to B)	4,725											
マネパカード口座数 (単位:口座)	124,965											

- (注) 1. 外国為替取引高は、顧客との相対取引による通貨毎の取引高を原通貨単位のまま合計したものであり、円換算は行っていません。
2. 外国為替取引口座数、マネパカード口座数及び外国為替取引預り証拠金は、それぞれ月末時点の口座数及び残高であります。
3. 平成23年8月より差金決済取引 (CFD) の取扱いを開始しており、CFDにおける預り証拠金、取引高（原取引単位を米ドルに換算）及びこれに伴うトレーディング収益はそれぞれ「外国為替取引預り証拠金」、「外国為替取引高」及び「営業収益」に含めて表示しております。
4. 外国為替取引預り証拠金は、一般顧客からの取引によるものとB to B取引先である金融法人からの取引によるものを区分して表示しております。

< 4月次の概況 >

4月の外国為替市場は、米ドル／円については、1ドル＝106円台前半で取引が始まり、前月からの米中の通商問題を背景に、一時105円台半ばの安値をつけましたが、その後、米国が交渉による合意を目指す姿勢を示すなど問題への懸念が後退すると円安ドル高の流れに転じました。その後も下旬に北朝鮮が核実験と大陸間弾道ミサイル発射実験を中止する方針を表明したことによる地政学的リスクの後退や米国金利の上昇を背景に円安の流れは加速し、最終週には109円台半ばの高値をつけた後、109円台前半で月末を迎えました。一方、米ドル／円以外の主要な取扱い通貨である欧州・オセアニア通貨については、月の半ばまでは円安で推移した後、月末に向けて円高傾向で推移しました。米ドル／円を含めた全体としての変動率は、月間の高値・安値の値幅は大きかったものの、前月を下回る水準となりました。

このような状況の中、外国為替取引高は、前月比29%減少の915億通貨単位となりました。一方、営業収益は、取引高の減少に伴いトレーディング収益が減少したものの、システム子会社によるシステム開発関連売上が大きく増加したことから、536百万円と減少幅は前月比▲5%にとどまりました。また、顧客基盤については、外国為替取引口座数は前月比1,325口座増加の315,872口座、マネパカード口座数は前月比2,246口座増加の124,965口座と堅調に増加した一方、外国為替取引預り証拠金は、円安局面での顧客含み損益の改善やポジションの増加等を受けて前月比621百万円増加の62,379百万円となりました。

以 上